

## 編 修 趣 意 書

(教育基本法との対照表)

※受理番号	学校	教科	種 目	学年
107-97	高等学校	地理歴史	日本史探究	
※発行者の 番号・略称	※教科書の 記号・番号	※教科書名		

## 1. 編修の基本方針

学習指導要領や教育基本法の主旨を忠実に守りつつ、以下の点を編集の軸とした。

- ① 我が国の連綿と続いてきた歴史や伝統を尊重し、歴史の良識を身につけられるように構成する。
- ② 基本的な知識や技能の習得と、意欲ある学生のための発展的学習を手助けするものをバランスよく構成する。
- ③ 歴史の真実を探究する自主性を促し、答えではなく問いを提起することを重視して構成する。
- ④ 我が国の歴史と伝統に誇りが持てるように構成する。

## 2. 対照表

図書の構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所
本文およびコラム	【幅広い知識と教養を身に着け】本文を中心に豊富な情報量を盛り込み、コラムにおいてさらに補足する形で、従来は焦点が当てられなかったところにまで手の届くものとなるように留意した。(第1号)	全文
コラム・京都になぜお堀がないのか コラム・対米戦争に勝算はあったのか コラム・蒸し返された韓国の請求権	【真理を求める態度を養い】左のコラムのように、歴史上のさまざまな事象に疑問を持ち、自ら探究できるきっかけを随所に配置するように留意した。(第1号)	109-110 368-369 422-423 ページ
コラム・『古事記』の国譲り神話 コラム・聖徳太子はなぜ仏教を受容したのか	【豊かな情操・道徳心を培う】左のコラムのように、我が国の歴史における話し合いの精神や多様性の尊重などを明記することで、学生の豊かな情操や道徳心を喚起するように留意した。(第1号)	32-33 73 ページ
コラム・古代オリンピックと近代オリンピック	【健やかな身体を養う】コラムにおいて、オリンピックの歴史を紹介し、戦争とスポーツの関係を理解させつつ、健やかな身体に目を向けられるよう	411 ページ

	に留意した。(第1号)	
コラム・修身道德の根本規範『教育勅語』	【個人の価値を尊重し】 教育勅語において「個人の価値」を一方向的に享受するのではなく、周りの人々を慮り、祖先の紡いできた古き良き価値に想いを馳せることの大切さを紹介することで「個人の価値の尊重」をただの権利の享受ではなく、より正しい形で理解できるように留意した。(第2号)	294—295 ページ
コラム・日本が生んだ新幹線	【その能力を伸ばし、創造性を培う】 新幹線という今では当たり前の公共交通機関が、世界の常識を覆すほどの創造性を有するものであったことを紹介し、日本のものづくりと身近なモノの創造性に気付かせるように留意した。(第2号)	407—408 ページ
コラム・真の勉強とは	【職業及び生活との関連を重視し、勤労を重んじる態度を養うこと】 真の勉強とは知の探究にこそあるという吉田松陰の教えを取り上げ、お金や仕事のための勉強よりも、知の探究こそが実生活にも良い影響を与えるものであることを気付かせるように留意した。(第2号)	252 ページ
コラム・トルコと日本の意外なつながり コラム・昭和天皇とマッカーサー元帥の会談	【正義と責任】 エルトゥールル号事件における日本人の行動が今なお続く両国関係に繋がっていることや、敗戦時の昭和天皇の責任感ある態度を紹介し、正義と責任の意義について理解出来るように留意した。(第3号)	301—302 399—400 ページ
本文 P127 御成敗式目 コラム・福沢諭吉の母は偉かった	【男女の平等】 福沢諭吉の母親などの日本人女性の活躍を取り上げ、母親の偉大さに気づかせるように留意した。 また、御成敗式目で男女平等が謳われていることを説明し、日本社会で男女平等が意識されてきたことに注目させるように留意した。(第3号)	127 278—279 ページ

コラム・「聖帝」として歴代天皇の模範とした仁徳天皇 コラム・修身道德の根本規範『教育勅語』	【公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養う】 仁徳天皇や教育勅語の他者を慮る態度が社会に与えた影響を紹介することで、その重要性を理解させるように留意した。(第3号)	59 294—295 ページ
コラム・再評価される「生類憐みの令」	【生命の尊び】 生類憐みの令を詳しく取り上げて、その本質を詳述することで、生命の尊さに気づかせるように留意した。(第4号)	223 ページ
コラム・神宮の御用材	【自然を大切に、環境保全に対する態度を養う】 神宮の御用材がリサイクルされてきたことを紹介し、日本人が環境保全を重視してきたことに気付かせるように留意した。(第4号)	164—165 ページ
コラム・男系で継承されてきた皇統	【伝統と文化を尊重し】 万世一系で途絶えることなく続いてきた皇統に注目させることで、長年継承されてきたものの大切さに気付かせるように留意した。(第5号)	88—89 ページ
コラム・日本語の起源	【それらを育んできた我が国と郷土を愛する】 最も身近な言葉の起源を紹介することで、日本という郷土に想いを至らせるように留意した。(第5号)	80—81 ページ
コラム・トルコと日本の意外なつながり コラム・ウズベキスタンにおける日本人の活躍	【他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養う】 他国との助け合いの歴史を尊重することで、国際的な相互理解の重要性に気付かせるように留意した。(第5号)	301—302 405 ページ

### 3. 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色

本書は従来の歴史区分を用いつつも、我が国の歴史の特色に従って、歴史の転換点を独自に設定した。そして、天皇を軸として語ることで歴史の連続性をより実感できるように工夫した。また、本書では縦書きを採用し、小見出しにも「いろは順」を用いるなど、ビジュアル面にもこだわり、読書する楽しみを提示しようと試みた。

内容では基本的内容の列挙にとどまらず、より高いレベルの知的探求を手助けし、歴史の真理を追い求める姿勢を育成するように、情報量と問いを意識して構成した。

(備考) 1 ※受理番号欄には、申請図書番号を記入する。

2 その他の※欄は検定申請時には記入せず、検定決定後に提出する際に記入する。

3 「編修の基本方針」欄には、教育基本法第2条に示す教育の目標を達成するために編修の基本方針とした点を記入する。

4 「対照表」欄には、図書の構成・内容と教育基本法第2条各号に示す教育の目標との対照について記入する。詳細は次のとおりとする。

- ① 「特に意を用いた点や特色」欄には、教育基本法第2条各号に示す教育の目標を達成するために、図書の構成や内容において編修上特に意を用いた点や特色について記入する。その際、教育基本法第2条各号のうち、特に関連が深いものを文末に示す。(例：第〇号)
- ② 「該当箇所」欄には、上記内容に対応する具体的な箇所が分かるように、主な該当箇所のページ(例：〇ページ)を記入する。
- ③ 必要に応じ、例で示している様式を参考にして、「対照表」欄を適宜工夫して作成しても差し支えない。
- 5 「上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色」欄には、上記の記載事項以外に、教育基本法第5条に示す義務教育の目的や学校教育法第21条に示す義務教育の目標、学校教育法第51条に示す高等学校教育の目標などを達成するため、編修上特に意を用いた点や特色などがあれば記入する。
- 6 「編修の基本方針」欄以下の外枠線は、記入しなくても差し支えない。
- 7 別紙様式第5-1号の分量は5ページ以内とする。

別紙様式第5－2号

(日本産業規格A列4番)

# 編 修 趣 意 書

(学習指導要領との対照表、配当授業時数表)

※受理番号	学校	教科	種 目	学年
107-97	高等学校	地理歴史	日本史探究	
※発行者の 番号・略称	※教科書の 記号・番号	※教科書名		

## 1. 編修上特に意を用いた点や特色

- ・我が国の歴史を、伝統と文化の特色を広い視野に立って臨場感豊かに著し、ワクワクドキドキの連続でまるで映画を見ているかのように、生徒が授業なしでも理解できるようにわかりやすく編集した。
- ・一義的ではなく多角的に理解させ、答えを求めるのではなく問いを提起することを意識して編集した。少数説もフォローし、幅広い知識を習得するために多くの事実を、科学的根拠・データを用いてしっかりと説明した。
- ・我が国の光と影、その両面を学ぶことで我が国を愛し、そして他国を尊重することができる生徒が育つよう、まさに自分自身こそが我が国の連綿と続く歴史の継承者であることを自覚させ、現代と違うもの、変わらぬものを比較する力を養い、どの生活場面でも生かすことができる教科書を作成した。

## 2. 対照表

図書の構成・内容	学習指導要領の内容	該当箇所	配当 時数
この教科書の課題 世界各国王朝略年表 歴代天皇の皇位継承図 歴史学習の幅を広げよう 政権担当者・出来事対照表	ABCD (1) (2) (3)	4～10ペ ージ  444～4 48ページ	2時 間
第1章 原始 一.先土器以前 イ.日本列島の誕生 ロ.人の起源 ハ.日本の磨製石器は世界最古  二.縄文時代 イ.日本の縄文土器は世界最古級 ロ.氷河期時代の終焉と縄文海進 ハ.縄文文化と縄文人の生活 ニ.影響し合う世界の文明	A (1) (2) (3)	11～  46ページ	22 時間

<p>ホ.ユーラシア大陸の状況  へ.宗教の起こり  ト.天孫降臨  三.弥生時代  イ.稲作の伝来ルート  ロ.弥生文化と弥生時代の生活  ハ.ギリシャ・ローマの文化  ニ.中国大陸と朝鮮半島の状況  ホ.日向三代と神武天皇の東征伝説</p>			
<p>第2章 古代  一.古墳時代  イ.前方後円墳の出現  ロ.『魏志』倭人伝が伝える三世紀の日本  ハ.謎の四世紀  ニ.記紀が伝える日本統一  ホ.世界最大の墓は仁徳天皇陵  へ.宋への朝貢  ト.ワカタケル大王と雄略天皇  チ.古墳時代の人々の生活  二.飛鳥時代  イ.古墳時代から飛鳥時代へ  ロ.聖徳太子の新政  ハ.中国との対等外交を目指した遣隋使  ニ.政変と戦争で進む中央集権化  ホ.大宝律令の完成は独立国の証  へ.「日本」を名乗った大宝の遣隋使  三.奈良時代  イ.平城京遷都と記紀編纂  ロ.繁栄の基礎を築いた藤原氏  ハ.出家した聖武天皇と大仏  ニ.皇位を狙う道鏡の野望  ホ.奈良時代の人々の暮らしと天平文化  四.平安時代  イ.平安遷都  ロ.最澄と空海  ハ.摂関政治  ニ.遣隋使の中止と国風文化  ホ.荘園の拡大  へ.武士の台頭  ト.院政  チ.源平の興亡</p>	<p>A (1) (2) (3)</p>	<p>47～114  ページ</p>	<p>32  時間</p>
<p>第3章 中世  一.鎌倉時代  イ.鎌倉幕府の幕開けと執権政治  ロ.承久の乱(承久の変)  ハ.鎌倉幕府の最盛期  ニ.武士と民衆の生活  ホ.蒙古襲来と亀山上皇の祈り  へ.幕府と御家人の関係のほころび  ト.鎌倉文化と鎌倉新仏教  チ.後醍醐天皇の倒幕運動と建武の新政</p>	<p>B (1) (2) (3)</p>	<p>115～176  ページ</p>	<p>24  時間</p>

<p>二.室町時代</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>イ.室町幕府の成立</li> <li>ロ.天皇権が最も衰退した時代</li> <li>ハ.倭寇と日明貿易</li> <li>ニ.琉球と蝦夷地</li> <li>ホ.室町幕府の衰退</li> <li>ヘ. 応仁の乱</li> <li>ト. 生産業と商業の発展</li> <li>チ. 北山文化と東山文化</li> <li>リ. 戦国大名の登場</li> </ul>			
<p>第4章 近世</p> <p>一.安土桃山時代</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>イ.世界の動きと日本</li> <li>ロ.大航海時代</li> <li>ハ.鉄砲の伝来と南蛮貿易</li> <li>ニ.正親町天皇と織田信長</li> <li>ホ.豊臣秀吉の天下統一</li> <li>ヘ. 秀吉の政治と北京遷都計画</li> <li>ト.安土桃山文化</li> </ul> <p>二.江戸時代</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>イ.関ヶ原の戦いと全国の統制</li> <li>ロ.朱印船貿易から鎖国へ</li> <li>ハ.鎖国下の対外窓口</li> <li>ニ.幕府と対立した後水尾天皇</li> <li>ホ.綱吉の文治政治と元禄文化</li> <li>ヘ.享保の改革</li> <li>ト.田沼の改革と寛政の改革</li> <li>チ.身分制社会</li> <li>リ.農業と産業の発達</li> <li>ヌ.国学・蘭学と化政文化</li> <li>ル.傍系から即位した光格天皇の気概</li> <li>ヲ.押し寄せる欧米諸国</li> <li>ワ.天保の大飢饉と天保の改革</li> <li>カ.幕府に下った「海防の勅」</li> <li>ヨ.ペリー来航と開国</li> <li>タ. 幕府の衰退と大政奉還</li> </ul>	<p>C (1) (2) (3)</p>	<p>177～ 262 ページ</p>	<p>42 時間</p>
<p>第5章 近代</p> <p>一.欧米の近代化と日本</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>イ.イギリス革命とアメリカ独立戦争</li> <li>ロ.啓蒙思想とフランス革命</li> <li>ハ.イギリス産業革命と資本主義</li> <li>ニ.欧米列強のアジア侵略</li> <li>ホ.欧米列強の日本遠征</li> <li>ヘ.ペリーとハリスの要求</li> </ul> <p>二. 明治時代</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>イ.戊辰戦争と新政府の発足</li> <li>ロ.廃藩置県と三大革命</li> <li>ハ.富国強兵と文明開化</li> </ul>	<p>D (1) (2) (3) (4)</p>	<p>263～ 390 ページ</p>	<p>70 時間</p>

<p>ニ.明治時代の文化</p> <p>ホ.領土画定と朝鮮政策</p> <p>ヘ.自由民権運動</p> <p>ト.大日本帝国憲法発布と帝国議会開設</p> <p>チ.条約改正交渉</p> <p>リ.朝鮮における日清の対立</p> <p>ヌ.三国干渉</p> <p>ル.義和団事件と日英同盟</p> <p>ヲ.日露戦争</p> <p>ワ.ポーツマス条約</p> <p>カ.韓国併合と中華民国の建国</p> <p>ヨ.日本の産業革命</p> <p>タ.都市と農村の生活</p> <p>三.大正時代</p> <p>イ.第一次世界大戦</p> <p>ロ.対華要求</p> <p>ハ.ロシア革命と社会主義の成長</p> <p>ニ.大戦終結と国際協調</p> <p>ホ.大戦景気と政党内閣の成立</p> <p>ヘ.大正デモクラシー</p> <p>ト.大正時代の生活と新しい文化</p> <p>三.昭和時代（戦前）</p> <p>イ.中国での排日運動の激化</p> <p>ロ.満州事変と満州国建国</p> <p>ハ.世界恐慌と国際協調の終焉</p> <p>ニ.ファシズムと共産主義の台頭</p> <p>ホ.二・二六事件と盧溝橋事件</p> <p>ヘ.戦時体制に入った日本</p> <p>ト.第二次世界大戦の勃発</p> <p>チ.日独伊三国同盟と日米交渉の決裂</p> <p>リ.真珠湾攻撃で対米戦争が始まる</p> <p>ヌ.日本の快進撃とアジア諸国</p> <p>ル.戦局の暗転と疲弊する日本</p> <p>ヲ.都市空爆と本土陸上戦</p> <p>ワ.ソ連参戦か原爆投下か</p> <p>カ.ポツダム宣言と原爆投下</p> <p>ヨ.ソ連参戦と戦争終結</p>			
<p>第六章 現代</p> <p>一.昭和時代（戦後）</p> <p>イ.GHQの占領政策</p> <p>ロ.大日本帝国憲法の改正</p> <p>ハ.冷戦と朝鮮戦争</p> <p>ニ.高度経済成長と石油危機</p> <p>ホ.戦後の日本文化</p> <p>ヘ.隣国との関係構築と冷戦の終結</p> <p>二.平成時代～現在</p> <p>イ.天安門事件</p> <p>ロ.冷戦終結</p> <p>ハ.テロとの戦い</p>	<p>D (1) (2) (3) (4)</p>	<p>391～ 443 ページ</p>	<p>18 時間</p>

ニ.頻発する地域紛争 ホ.緊張する東アジア情勢 ヘ.国際協調と日本の役割 ト.震災と世界の中の日本 チ.日本経済の推移と課題 リ.平成から令和へ			
		計	210

- (備考) 1 ※受理番号欄には、申請図書番号を記入する。
- 2 その他の※欄は検定申請時には記入せず、検定決定後に提出する際に記入する。
- 3 「編修上特に意を用いた点や特色」欄には、学習指導要領の総則や当該教科の目標を達成するため、編修上特に意を用いた点や特色を記入する。
- 4 「対照表」欄には、図書の構成・内容と学習指導要領に示す「内容」の各事項との対照について、「内容の取扱い」も踏まえて記入する。その際、「該当箇所」欄に、申請図書の該当箇所のページ(例：〇～〇ページ)を記入する。また、必要に応じ、例で示している様式を参考にして、「対照表」欄を適宜工夫して作成しても差し支えない。
- 5 「配当時数」欄には、申請図書で予定している配当授業時数を示すこと。なお、配当授業時数の記載が必要ない教科、種目については空欄でよい。
- 6 「編修上特に意を用いた点や特色」欄以下の外枠線は、記入しなくても差し支えない。
- 7 別紙様式第5－2号の分量は5ページ以内とする。

## 編 修 趣 意 書

(発展的な学習内容の記述)

※受理番号	学校	教科	種 目	学年
107-97	高等学校	地理歴史	日本史探究	
※発行者の 番号・略称	※教科書の 記号・番号	※教科書名		

ページ	記 述	類型	関連する学習指導要領の内容 や内容の取扱いに示す事項	ページ数
53	初期の前方後円墳が密集する…	2	B (1)	0.75
223	再評価される「生類憐みの令」	2	B (3)	0.75
368~ 369	対米戦争に勝算はあったか	2	C (1)	1.75
合 計				3.25

- (備考) 1 ※受理番号欄には、申請図書番号を記入する。
- 2 その他の※欄は検定申請時には記入せず、検定決定後に提出する際に記入する。  
「ページ」欄には、申請図書における発展的な学習内容の記述の掲載ページを示す。
- 3 「記述」欄には、申請図書における発展的な学習内容の記述に付された表題等を示す。
- 4 「類型」欄には、申請図書における発展的な学習内容の記述について、以下の分類により該当する記号を記入する。
- ・ 学習指導要領上、隣接した後の学年等の学習内容（隣接した学年等以外の学習内容であっても、当該学年等の学習内容と直接的な系統性があるものを含む）とされている内容…… 1
  - ・ 学習指導要領上、どの学年等でも扱うこととされていない内容…… 2
- 5 「関連する学習指導要領の内容や内容の取扱いに示す事項」欄には、当該学年等の学習指導要領の内容や内容の取扱いに示すどの事項と関連があるのか分かるように記入する。
- 6 「ページ数」欄には、発展的な学習内容の記述が掲載されているページ数を記入する。ページの数え方は以下のとおりとする。「合計」欄には発展的な学習内容の記述の合計ページ数を記入する。
- ・ 0.25ページ以下…0.25ページ
  - ・ 0.25ページを超えて0.5ページ以下…0.5ページ
  - ・ 0.5ページを超えて0.75ページ以下…0.75ページ
  - ・ 0.75ページを超えて1ページ以下…1ページ
- 7 別紙様式第5－3号の分量は2ページ以内とする。

## 非常用漢字の初出 ページ一覧

非常用漢字	初出ページ
殷	4
邈	4
喻	4
頃	4
倭	4
痕	5
弥	5
李	6
晋	6
魏	6
隋	6
韓	6
宋	6
胡	6
蜀	6
嗟	8
欽	8
龜	8
綏	8
智	8
峨	8
雀	8
允	8
懿	8
峻	8
淳	8
醐	8
醜	8
舒	8
桓	8
弘	8
靖	8
柏	9
奈	9
栖	9
脩	9
桂	9

笠	9
梨	9
誰	12
秦	12
纂	12
那	12
耶	13
伊	13
窟	14
廻	14
畿	14
阿	15
搔	15
斯	15
邇	15
須	15
之	15
葦	15
呂	15
訶	15
淤	15
鹿	16
堆	16
尻	16
斧	16
熊	18
萩	18
潰	19
臼	19
杵	19
尖	19
憑	19
槍	19
播	20
棲	20
鏃	20
焉	21
焰	21
蟹	21
銛	22
豎	22
猪	22
栗	22

瓢	22
稗	22
濡	22
荏	22
箆	22
粟	22
葺	22
崖	23
翡	24
稀	24
珀	24
翠	24
琥	24
祀	25
錫	26
汜	26
漑	26
灌	26
嶼	27
黍	28
楔	28
毘	30
勾	30
瓊	30
薙	30
迦	30
諏	32
汝	32
此	33
祚	33
爾	33
掬	33
賑	33
瑞	33
吾	33
矣	33
辻	34
棲	34
岡	35
遼	35
櫓	36
柵	36
塞	36

壕	36
濠	36
鍵	37
鋏	37
鐸	37
鋤	37
畦	37
鉋	37
鼠	37
紐	40
綬	40
夷	40
宛	40
焚	41
俑	41
匈	41
劉	41
鶉	42
云	42
蔡	42
菟	43
咫	44
櫃	44
筑	44
烏	44
儂	45
娶	45
紘	45
亦	47
掩	47
旦	47
煬	48
坐	48
庇	48
侶	48
跏	49
鴻	49
彌	49
恙	49
菩	49
雞	49
詣	49
勿	49

曰	49
卿	49
臚	49
沙	49
薩	49
闕	49
於	49
謂	49
倭	49
跌	49
埴	50
餐	50
纏	51
箸	51
擘	52
范	52
磯	52
麓	52
籬	52
呪	53
婢	53
辰	54
謎	54
羌	55
氏	55
寇	56
庚	56
斬	56
亥	57
佩	57
卯	57
茅	58
淀	58
讚	58
竈	58
揃	58
堺	60
鹵	62
埼	62
胄	63
冶	64
轆	64
轆	64

杖	65
釜	65
嵌	65
嘗	66
藤	66
蘇	66
廟	66
捧	67
廐	69
甥	69
鞞	69
姪	69
嫉	70
妬	70
洛	70
鎌	70
揉	71
睦	71
紆	72
黎	72
註	72
貪	73
薨	74
淵	74
裴	74
厨	74
籠	76
壬	76
徭	76
蓋	77
巳	77
蝦	77
寅	78
祇	78
脆	80
舵	80
玕	81
渤	81
瓦	83
沌	84
關	84
簾	85
昉	86

橘	86
媛	86
葛	86
擢	86
磐	86
櫃	86
廬	87
杼	89
彥	89
乎	89
淳	89
諫	90
穢	90
幡	90
捏	90
狙	91
禱	96
撰	96
叡	97
峯	97
枕	98
讒	98
菅	98
匡	98
帖	98
趙	98
胤	98
蒙	98
藪	100
饉	100
陀	100
凰	100
綻	100
屠	100
粥	100
鳳	100
綴	101
惣	102
梁	102
茨	103
禎	105
戚	105
檀	106

俱	106
伽	106
怯	108
蜂	108
纂	109
蹟	109
奸	110
蛤	110
襖	111
牽	119
笹	120
伎	120
堵	120
兔	120
骸	120
賭	121
鎧	122
輿	122
綸	123
熙	123
按	124
汰	124
祿	126
馳	126
輦	126
鞭	126
楮	128
藍	128
鏑	130
衾	130
匏	130
鉞	130
哥	132
苑	132
諶	133
宮	134
宸	134
扁	134
畏	134
咎	136
宥	137
蓮	138
琵琶	138

傭	138
鸞	138
只	138
庵	138
滲	138
琶	138
鳴	138
舍	140
鳴	140
塵	140
袖	141
苔	141
怨	142
竣	142
檄	144
楠	144
贅	145
挫	146
苔	146
頓	146
湊	146
魄	146
瞰	146
俯	146
屏	148
阜	148
植	150
詮	150
擾	151
牒	152
揆	152
剥	153
璋	154
椒	154
宦	154
孟	156
跪	156
韜	156
殆	157
琉	158
牙	158
巴	159
舜	159

嘉	160
饗	160
憶	160
蠣	161
鮭	161
詫	162
逼	162
勃	163
籤	163
夭	163
檜	164
曾	164
阜	165
喧	165
杣	165
爪	166
剋	166
檉	166
駿	167
糞	167
侘	168
遑	168
敦	168
稽	168
玖	170
芥	170
醬	170
噌	170
掟	170
廿	170
枋	171
竄	178
遜	178
贖	180
篠	186
斐	186
堯	187
桶	187
叶	189
挺	189
膳	189
楊	190
仇	190

柴	190
賤	190
涌	190
聚	192
旭	192
閣	194
鶴	194
閏	194
誅	195
盃	195
剝	197
枘	197
箔	198
瑠	198
璃	198
鷺	200
尹	202
諡	202
囧	202
戊	208
謳	209
雍	210
虎	210
藩	210
溥	210
奄	212
也	213
鱻	214
鱮	214
鮑	214
煎	214
函	215
錦	215
叢	215
矩	215
茲	216
鷹	216
樺	216
裘	217
腫	217
袈	217
灸	217
帛	218

烹	218
鑽	218
琳	219
憐	219
曾	220
阜	220
牟	220
熙	221
聰	222
挪	222
揄	222
雛	222
攘	222
蕉	223
蕃	223
乃	223
諧	223
菱	223
芭	223
笈	225
蛙	225
蟬	225
旛	226
敲	227
昌	228
捐	228
穰	229
賽	229
撒	230
蘭	231
繫	231
翮	232
銚	232
嗜	232
庄	232
粕	232
灘	232
糠	232
汲	233
粃	233
箕	233
吞	233
脇	234

樽	234
嶋	234
確	235
洒	236
蕪	236
蔭	236
蟠	236
冨	236
洲	236
麿	236
渥	237
膝	237
祐	238
欣	238
串	240
捉	242
戌	242
嶺	242
輻	244
椿	244
蕝	244
鍋	245
粥	246
膠	246
撫	246
樽	247
鱗	249
翰	249
懼	250
朋	250
瑕	251
瑾	251
乞	251
牢	252
毀	253
萌	259
愕	259
峙	262
惹	265
榎	268
稜	268
莫	269
撼	269

惧	269
倦	271
陋	271
榜	271
喬	273
隈	273
禧	273
輔	273
幌	274
礦	274
駒	274
廠	274
兌	275
聘	275
諺	276
虱	278
柿	280
啄	280
茨	280
隴	281
鷗	281
鳩	281
館	281
朦	281
罹	281
漱	281
樋	281
隙	285
熾	288
其	288
攬	290
詢	290
捺	290
毅	291
爰	293
斟	293
咸	294
膺	294
拳	294
悖	294
馨	295
肇	295
宏	295

厥	295
惟	295
駕	298
凌	298
椅	298
臥	301
伍	301
幹	301
獅	303
嚙	304
噓	304
殲	305
嬉	308
拿	308
瀕	310
噍	310
涉	310
哈	310
挽	312
袁	312
凱	312
棉	315
凜	316
渙	316
煉	317
圭	326
鞞	328
闊	328
蚶	332
哉	332
霖	332
蔣	332
莞	332
蛛	332
笮	333
冀	334
塘	334
沽	334
僵	336
傀	336
豐	337
慾	340
萱	340

曠	340
盧	342
扮	344
屑	352
哮	355
咆	355
弩	355
錠	357
汪	359
煽	360
蔽	364
蒼	364
瞞	372
蔑	373
濤	374
炸	375
弄	379
舷	383
轟	383
纜	383
駁	384
閤	392
稔	394
葵	395
姦	399
絆	399
劫	400
讐	400
礫	404
喘	409
俣	409
佑	411
浩	411
梃	411
蔓	411
玲	411
赴	412
魁	413
恢	415
耀	417
鯉	420
疆	421
拉	423

凜	426
曝	431
頁	431
徨	432
彷彿	432
閃	433
僅	440
躊	444
冲	444
貌	444
蹙	444
騏	446
槻	447
奎	447
掖	448
涿	448
崙	448
瀆	448
渠	448
鄆	448
闐	448
陟	448
泗	448
鄯	448
滇	448
沛	448
汴	448
煌	448
渾	448
邯	448
淮	448
祁	448
閩	448
渭	448
于	448
杭	448
泚	448
崑	448
鶻	449
勒	449
楚	449
臘	449
嶺	449

燕	450
牡	450
燧	451
蛭	451
鶻	451
斫	451
芦	454
鞍	454
矧	455
毆	455
崗	456
堡	457
蹄	460
紳	460
碧	460
漳	461
鮫	461
釜	461
樟	461
蔚	461
狗	462
酉	463
瀦	464
烙	465
粵	466
汕	466
厦	466
鬱	467
閤	468
馮	468
瑚	468
孚	468
珊	468
禰	469
筵	469
斑	472
眉	472
櫛	474
壺	474
頰	478
駝	480
貼	480
駱	480

瑁	480
螺	480
鈿	480
玳	480
絃	481
臂	481
嘩	482
縞	482
忿	482
狐	483
哂	484
蒔	486
蟻	486
慧	487
硯	487
砧	487
禽	488
綵	493
謚	496



69	古墳カレー	写真					撮影 竹田恒泰
83	一万円札	写真					C 一万円券
91	大極殿	写真					Wikimedia Commons
92	和気清麻呂	写真					丙 10 円券
95	宇佐八幡宮	写真					国立国会図書館
99	羅生門	写真					Wikimedia Commons
107	紫式部・源氏物語	写真					Wikimedia Commons
117	文永の役	写真					Wikimedia Commons
120	壇ノ浦の戦い	写真					神護寺蔵
121	源頼朝	写真					Wikimedia Commons
124	源氏紋	写真					提供 高野山 霊宝館
125	鎌倉御家人	写真					提供 高野山 霊宝館
127	鎌倉方	写真					Wikimedia Commons
130	後鳥羽上皇	写真					Wikimedia Commons
133	笠懸・建設現場	写真					東京国立博物館所蔵

134	蒙古襲来絵巻詞・フ ビライ・ハン	写真					提供 宮内庁 Wikimedia Commons
135	モンゴル草原	写真					Wikimedia Commons
141	宮崎宮	写真					Wikimedia Commons
142	一遍	写真					東京国立博物 館
143	南大門・踊念仏	写真					Wikimedia Commons
144	北野天神五巻・六巻	写真					東京国立博物 館 北野天満宮蔵
145	新田義貞	写真					提供 藤島神 社
146	後醍醐天皇	写真					Wikimedia Commons
147	楠木正成	写真					Wikimedia Commons
148	護良親王	写真					Wikimedia Commons





203	姫路・松本城 関ヶ原合戦	写真					Wikimedia Commons
206		写真					Wikimedia Commons
207	徳川家康	写真					国立国会図書 館デジタルコ レクション
208	禁中並公家諸法度	写真					提供 国立歴 史民俗博物館
211	江戸図	写真					Wikimedia Commons
212	参勤交代	写真					提供 長崎歴 史文化博物館
	朱印船	写真					
	記念切手	写真					提供 Cool Art Tokyo
	天草四郎	写真					
214							Wikimedia Commons
	朱印状	写真					Wikimedia Commons
218	琉球・蝦夷・朝鮮 人・出島	写真					
219	後水尾天皇	写真	大蔵省理財局『日本通貨				提供 宮内庁 Wikimedia



	ナージェダ号	写真					国立国会図書館
247	大塩平八郎・水野忠邦	写真					Wikimedia Commons
248	マシュー・ペリー	写真					Wikimedia Commons
250	孝明天皇	写真	『太陽 臨時増刊 明治聖天子』博文堂、1912年より				Wikimedia Commons
254	桜田門外変	写真					Wikimedia Commons
255	井伊直弼	写真					Wikimedia Commons
267	馬関戦争						Wikimedia Commons
272	徳川家茂・慶喜						Wikimedia Commons
275	明治の人口構成	グラフ	『日本の人口』安藤良雄編『近代日本経済史要覧』より	関山直太郎			Wikimedia Commons
278	八幡・造船所・端島	写真					Wikimedia Commons 提供 内閣官房

288	炭鋹	写真					Wikimedia Commons
	福沢諭吉	写真					Wikimedia Commons
291	尖閣諸島	写真					Wikimedia Commons
	田原坂の戦い・西郷隆盛	写真					Wikimedia Commons
292	帝国憲法・署名	写真					Wikimedia Commons
298	伊藤博文・井上毅・	写真					Wikimedia Commons
299	帝国憲法	写真					Wikimedia Commons
	平壤の戦い	写真					Wikimedia Commons
300	大本営・下関講和						
	下関講和談判	写真					Wikimedia Commons
301		写真					Wikimedia Commons
304	エルトゥールル号・						Wikimedia Commons
	オスマン提督	写真					
306	ルーズベルト	写真					©Hiroyuki Sugano
308	水師営・乃木・ステッセル	写真					Wikimedia Commons
311	三笠	写真					

317	境界標石	写真					Wikimedia Commons
321	明治天皇	写真					Wikimedia Commons
324	日本赤十字	写真					Wikimedia Commons
327	パリ講和会議	図	長期経済統計「貿易と国際収支」				
329	貿易額の推移	写真					Wikimedia Commons
331	美濃部達吉・吉野作蔵	写真					Wikimedia Commons ©竹田恒泰
333	丸の内駅舎	写真					Wikimedia Commons
336	現在の東京駅	写真					Wikimedia Commons
339	石原莞爾 溥儀・リットン調査団	写真 図			幻冬舎新書		Wikimedia Commons
342	取り付け騒ぎ	写真	『大本営発表』	辻田真佐憲			Wikimedia Commons Wikimedia

345	日本軍の中央組織 宮沢賢治	写真					Commons Wikimedia Commons
346	二二・六・盧溝橋	写真					©Hiroyuki Sugano
347		写真					Wikimedia Commons
348	近衛文麿 零戦	写真					Wikimedia Commons
349	東京オリンピック	写真					Wikimedia Commons
350		写真					Wikimedia Commons
351	ワルシャワ市街	写真					©Hiroyuki Sugano
354	樋口季一郎	写真					Wikimedia Commons
355	杉原千畝・ビザ	写真					Wikimedia Commons
356	戦艦大和	写真					Wikimedia Commons
361	ルーズベルト	写真					Wikimedia Commons
365	東条英機・木戸幸一	写真					Wikimedia Commons
370	真珠湾攻撃 ミッドウェー海戦	写真					Wikimedia Commons

380	B-29・東京大空襲	写真					Wikimedia Commons
381	戦艦ミズーリ 乙女の碑	写真					©竹田恒泰 ©竹田恒泰
382	電信局跡地	写真					Wikimedia Commons
394	行幸記念碑	写真					Wikimedia Commons
398	小笠原丸	写真					Wikimedia Commons
399	マッカーサー・全権 代表団	写真					Wikimedia Commons
404	日本国憲法原本	写真					Wikimedia Commons
407	昭和天皇とマッカー サー	写真					
408	ナヴォイ劇場	写真					
414	新幹線車両	写真					
422	特急あじあ	写真					Wikimedia Commons
430	昭和天皇巡幸	写真					Wikimedia Commons Wikimedia

431	慰安婦像						Commons
	即位礼正殿の儀・新元号	写真					©竹田恒泰 首相官邸ホームページ
432	オバマ大統領と安倍首相	写真					Wikimedia Commons
433	森重昭さん	写真					提供 産経新聞社
441	折り鶴	写真					Wikimedia Commons
473	大津波記念碑	写真					Wikimedia Commons
474	鶴斑毛御彫馬	写真					神宮司庁蔵
475	遮光器土偶	写真					東京国立博物館蔵
	縄文のビーナス	写真					茅野市尖石縄文考古館蔵
476	仮面の女神						
477	火焰型土器	写真					十日町市博物館蔵
478	曾利式深鉢形土器						
479	袈裟襷文銅鐸	写真					山梨県立考古博物館蔵 島根県立古代

480	壺型土器	写真					出雲歴史博物館保管
481	直弧文鏡	写真					東京国立博物館蔵
	埴輪式武装男子立像						宮内庁書陵部蔵
482		写真					東京国立博物館蔵
483	菩薩半跏像	写真					中宮寺蔵
484	高松塚古墳壁画	写真					便利堂
	高松塚古墳	写真					Wikimedia Commons
485	螺鈿紫檀五絃琵琶	写真					宮内庁
486	阿修羅像	写真					興福寺蔵
487	不動明王坐像	写真					東寺蔵
488	鳥獸人物戯画	写真					高山寺蔵
490	金剛力士立像						東大寺像
	砧蒔絵硯箱	写真					東京国立博物館蔵

491	天稚彦草紙絵巻	写真						ベルリン国立 アジア美術館 蔵
492	慧可断臂図	写真						齊年寺蔵
	四季花鳥図襖	写真						聚光院蔵
494	唐獅子図屏風	写真						宮内庁三の丸 尚蔵館蔵
	燕子花図屏風	写真						根津美術館蔵
496	風神雷神図屏風	写真						建仁寺蔵
497	群鷄図	写真						宮内庁三の丸 尚蔵館蔵
	神奈川沖浪裏	写真						東京国立博物 館蔵
498	品川	写真						ニューアーク 美術館蔵
499	夏之不二	写真						足立美術館蔵
500	黒船屋	写真						竹久夢二伊香 保記念館 長野県立美術

502	緑響く	写真						館蔵
503	明日の神話 娘 春少女	写真 写真 写真						◎岡本太郎記念館 個人蔵 横浜美術館蔵

(備考) 1 「申請図書」の欄については次のとおりとする。

- ① 「ページ」の欄には、引用又は新たに作成した教材や資料等の申請図書における掲載ページを示す。
  - ② 「名称」の欄には、引用した教材や資料等の申請図書における名称を示す。
  - ③ 「種別」の欄には、国語教材、楽譜、写真、図、挿絵、表、グラフ、地図などの別を示す。
- 2 「出典」の欄については次のとおりとする。
- ① 出典が一般図書の場合は、当該図書の名称（版次を含む。）、掲載ページ、著作者・編集者等、発行者及び発行年次を各欄に示す。
  - ② 出典が定期刊行物の場合は、発行年次等欄に巻号、発行月日等を示す。
  - ③ 出典が図書でない場合には、備考欄に資料提供者や保有者の氏名又は名称、及び当該資料に付された整理番号等を示すなど、出典を確認することが可能な情報を記入する。
- 3 出典を基に申請図書の発行者が改変を行った場合又は新たに作成を行った場合は、「備考」欄にその旨を示す。
- 4 (1) 写真等については、肖像権等の権利処理を必要に応じて行うこと。  
(2) 著作物の掲載に当たっては、著作権法第33条に基づき、掲載する旨を著作者に通知するとともに、  
補償金を著作権者に支払う必要があることに留意すること（別途契約を締結する場合を除く）。

備考4の内容について確認しました。



## ウェブサイトのアドレスの掲載箇所一覧表

申請図書			学習上の参考にする情報			備考
番号	ページ	種別	参照先	URL	概要	
1	445	二次元コード	令和書籍株式会社	自社ページURL	漫画『承久の乱 (承久の変)』	別紙 1 添付

(備考)

申請図書中に発行者が管理するウェブサイトのアドレス（二次元コードその他のこれに代わるものを含む。）を掲載する場合に、本表を以下のとおり作成する。

1 「申請図書」の欄については次のとおりとする。

- ① 「番号」の欄は、複数のページ等に掲載されたウェブサイトのアドレスが同一のウェブサイトを参照させる場合、一つの番号にまとめて記入する。
- ② 「ページ」の欄は、ウェブサイトのアドレスの申請図書における掲載ページを示す。
- ③ 「種別」の欄は、URL、二次元コード等の別を示す。

2 「学習上の参考にする情報」の欄については次のとおりとする。

- ① 「参照先」の欄には、発行者のページから参照させる学習上の参考にするページを作成する団体名などを記入する。
- ② 「URL」の欄には、実際に参照させる学習上の参考にするページのURLを記載する。なお、参照先が発行者の作成したページである場合は、「自社ページURL」と記入する。
- ③ 「概要」欄には、参照先における情報の内容を簡潔に記入する。

3 申請図書中のウェブサイトのアドレスが参照させるウェブサイトの画面を印刷した紙面には、対応する本表の番号を紙面右上に付記し、本表に添付すること。

4 学習上の参考にする情報を示すウェブサイトが発行者において作成したページの場合、参照先のウェブサイトの画面を印刷した紙面を、本表に添付すること。その際、「備考」の欄に「別紙 1 添付」などと記載し、印刷した紙面右上に「別紙 1」などと記入すること。